

同窓会報

(第51号)

発行: 〒260-0853
千葉市中央区葛城1-5-2
千葉県立千葉高等学校同窓会
同窓会長 林 孝二郎
TEL. 043-239-5550
FAX. 043-239-5551
印刷: 有限会社 プリントピア
TEL. 043-233-9671

ご挨拶



同窓会長 林 孝二郎
(昭和39年卒)

千葉高同窓会の皆様、コロナの脅威が続く中で新しい年を迎えることとなりましたがいかがお過ごしでしょうか。欧米ではオミクロン株の感染拡大はさまざまなものがあります。わが国では、厳しい水際対策により感染は比較的抑えられておりましたが、1月に入り第6波というべき状況になっており今後の推移が心配です。

さて、昨年の同窓会を振り返ってみますと、1月に予定していた「第71期生成人記念同期会」が中止に追い込まれたのははじめ、定時理事会、総会・懇親会が相次い

で中止となりました。また各地域の同窓会、部活OB会、職域同窓会も軒並み中止ということで、私も皆様と顔を合わせる機会が全くないという状況でした。今年の同窓会報に寄せられたお便りには皆様の残念な思いが溢れておりますが、一方、例年にはない思い出話など興味深い記事が多いと感じております。このように対面での交流ができない中であつて同窓会報の役割はいつにもまして大きかったと思います。

母校の方でも長引くコロナウイルス感染症の影響で職員の皆様のご苦労は大変であつたと思いますが、オンライン授業の実施など新しい試みも進展があつたと聞いており、また、総合学習や進路指導など同窓会が協力している学校行事も何とか実施できました。

昨年の同窓会の大きな出来事としても一つご報告いたします。令和元年に亡くなられた昭和50年卒業の石田康治様から大変高額のご遺贈をいただきました。これまで本同窓会では周年事業や運動場整備のような特定目的の寄付金をお願いし活用してきた経験はありますが、今回のような特別の使用目的を定めない寄付金については明確な会計上の扱いが定められていなかったため、本年1月の定時理事会で、同窓会会則と細則を一部改正させていただきました。今後、細則に基づき、基金に計上された寄付金が適正かつ有効に活用されることを期待したいと思ひます。(会則及び細則の改正については、本会報の23頁をご参照ください)

ところで、昨年の会報に私が同窓生の著作のお話を載せたところ、その後、先輩や後輩の方から2冊の本を紹介されました。1冊は「都市の医者」という題名で、明治19年に千葉中学を卒業した浜野弥四郎の物語です。氏は今のコロナウイルスと同じようなコレラの流行の恐怖を少年時代に経験したことから衛生工学を学び、日本のそして植民地時代の台湾の上水道、下水道の普及に大いに貢献したこの分野での草分け的存在であつたことが語られております。他の一冊は県庁OBで私の1年先輩の斎藤剛氏の書いた「大東亜戦争へ至る歴史」で、かつて私も同書のほか「大蔵大臣水田三喜男」という著作を斎藤氏からいただいたており両著作とも大変な力作と感じていました。

さて、今年に入りコロナ感染が徐々に広がる中ではありましたが、1月8日に「第72期生(令和2年卒業)成人記念同期会」が開かれました。また翌日の1月9日には昨年開くことができなかった「第71期生卒業後第1回同期会」も1年遅れで開催することがで

きました。マスク着用などは当然として、例年より広い会場で、短い時間の会にするなどコロナ対策に十分配慮した上での開催となりました。しかしながら、その後のオミクロン株による感染拡大は予想をはるかに超えるものとなり、千葉県においてもまん延等防止特別措置が適用されることとなりました。このことから、昨年末にご案内を差し上げた総会・懇親会については開催を見送らざるを得ませんでした。新型コロナウイルスによる感染が一日も早く収束し、同窓生の交流が再開できることを心から願っております。

最後になりますが、1月の理事会において役員改選があり、私、引き続き会長を務めさせていただきましたことになりました。本年も同窓会運営へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会報第51号 もくじ

ご挨拶	会長 林 孝二郎	1
校長報告	校長 加藤 俊文	2
同窓会報に思う	副会長 戸谷 久子	3
会報によせて	専任編集長 永田 忠以	3
事務局近況	事務局 阿佐 幸雄	4
会報寄付者一覧		5
支部だより		6
OB会だより		7
学生短信		10
葛城人脈		18
令和4年度 定時理事会報告		21
学校近況報告・葛城だより		24

県立千葉中学校・高等学校近況



校長 加藤 俊文

千葉高校同窓会の皆様には、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に御支援を頂いておりますことに感謝申し上げます。創立144年目を迎える県内屈指の伝統校に一昨年起任し、時間が過ぎるにつれ責任の重さを日々実感しながらこの一年半余りを過ごしてまいりました。昨年に引き続き新型コロナウイルスウィルス感染症の影響を受け同窓会各支部の会合も悉く中止となり、特に1月に予定していた卒業して2年目を迎える若手の同窓生の皆さんとお話ができる機会がなくなってしまうました。先輩の校長先生方によると、例年二百名を超える同期生が集まり、進路先での現況を話すことはもちろん、今後の目標を熱く語るなど、同期生にとって本当に充実した会合となっている

と伺いました。私にとっても千葉高の本質に触れることのできる絶好の機会を逸してしまっただことは非常に残念でなりません。また、全国には活動を発信にすることに苦勞している同窓会が多い中で、このように若い同窓生の集まりを開催できることは、千葉高校同窓会にとって大変意義深いものであったはずで、アフターコロナとなり様々なことに配慮をしつつも復活されることを期待してまいります。

さて、同窓会報第50号以降の学校の近況を報告させていただきます。令和2年は、臨時休業をはじめ様々な学校行事を中止せざるを得ませんでした。それによる精神的負担はことのほか大きく、その喪失感や無力感が生徒たちの今後にどのような影響を与えるか心配でありました。今年度に入り、「自主自律」の精神を存分に発揮できる生徒

が主体となる学校行事を可能な限り実施していくことを職員全体で確認し、校長としても多少の無理を承知で開催する覚悟をもって学校運営にあたりました。その中で、千秋祭、体育大会、そして修学旅行を無事実施することができました。ここでは、同窓会の皆様に御協力いただいた学校行事を紹介させていただきます。

「総合的な探究の時間」

○外部講師講演会

（1年生対象）

龍崎 孝様(S54卒)

（2年生対象）

山内 真理様(H11卒)

東 寿浩様(H12卒)

作田 豊様(H12卒)

佐々木俊介様(H12卒)

鈴木 裕介様(H12卒)

寶川 紘司様(H14卒)

桑原 沙耶様(H17卒)

鹿渡 俊介様(H18卒)

「進路指導部行事」

○合格体験談を聞く会

（6月…東京大学編）

星野 匠海様(R3卒)

伊藤 咲輝様(R3卒)

金澤 健太様(R3卒)

（7月…医学部編）

石丸 直樹様(R3卒)

伊東 愛織様(R3卒)

星野 清香様(R2卒)

○東北大学工学部模擬講義

成島 尚之様(S56卒)

錫田 駿様(H20卒)

○インターンシップ

川崎 仁寛様(H13卒)

○卒業生による京都大学を語る

夕べ(11月…修学旅行編)

石川 夏音様(H30卒)

鳥海 葵子様(H31卒)

井戸 孝哉様(H31卒)

永所康太郎様(R2卒)

宍倉 隆宏様(R2卒)

森田 歩 様(R2卒)

「がん教育授業の実践研究会」

濱野 公明様(S57卒)

「最高裁判所によるオンライン講義」

草野 耕一様(S48卒)

皆さんお忙しい中、時間を割いて後輩たちの為に御協力いただきました。心から感謝申し上げます。こうした伝統が千葉高を支えているのだと実感させられます。

生徒たちも頑張っています。山岳部が68年ぶりに県で優勝し、福井県で開催された全国高

等学校総合体育大会に出場を果たしました。また、和歌山県で開催された全国高等学校総合文化祭に囲碁部・将棋部・書道部の生徒が出場・出品することができました。さらには、長野県で行われた全日本オリエンタリング選手権大会高校生の部に地理部が出場し、男子の部での優勝を始め、複数のカテゴリーで上位入賞を果たし活躍を見せました。その他、弓道部が関東選抜大会に、囲碁部が関東地区選手権大会に出場するなど、多く部活動において、「自主自律」のもと生き生きと活動しています。そのような姿を見るたびに早くコロナが終息し、部活動への制限がなくなることを願って止みません。

学校をめぐる環境が大きく変化する中、本校の生徒が文武にわたり日々活動できるのも、同窓会の皆様の多大な御支援があるからこそであると思います。学校は、教育活動の更なる発展を目指し、生徒・職員一丸となつて精一杯努力をして参ります。同窓生の皆様には、今後とも本校の教育に対する御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

同窓会報に思う

副会長 戸谷久子
(昭和46年卒)

安堵致しました。

この2年、新型コロナウイルス感染症禍で私たちの日常生活は、一変しました。残念ながら千葉高同窓会関連の会合や事業も見送りになりました。同窓会報に寄せられる原稿も支部同窓会等のリアル開催報告は見当たりません。

一方、筆者の経験や心情が表現され、ある意味興味深く拝読しております。特に前回の会報で、平成18年卒の戸澤庸子さんの切実な思いを知ることができました。30歳以上も若い後輩が、「私が女であることで受けた不条理を、この子も受けるのか」という文章は、衝撃的でした。妊婦健診でお子さんの性別を告げられた時の悲しみについて書かれた内容です。男女共同参画の推進やジェンダー平等に取り組んできた者として、現実を承知していながらも、個人的にとっても切ない気持ちになりましたが、心強い言葉で締めくくって頂き、

安堵致しました。

男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、男女共同参画社会基本法など法律は整ってきていますが、依然として職域や評価に男女差があることも実態です。また、企業等の働く場だけでなく、地域や家庭の中でも性別役割分業意識は根強く残っていて、本人の意識とは裏腹な出来事が多々存在します。

最近の日経新聞に赤松良子氏の「私の履歴書」が掲載されていました。女性の地位向上や男女平等の実現にとつてもないエネルギーで取り組んでこられた歴史を読み取ることができました。男女共同参画の推進はまだ道半ばですが、少しずつでも様々な活動により、社会を変えていきたいと日々思っています。子どもたちの将来のために。

これからも千葉高同窓会報に皆様の様々なご意見や思いを、お寄せくださることを期待するとともに、とても楽しみにしております。

始め良ければ終わり良し

葛の花会会長 永田 忠以
(昭和37年定卒)

「始まりがあれば終わりもある」は世の常であろう。定時制同窓組織「葛の花会」が発足してから半世紀以上が経ちます。以前、会報に寄稿した際にも、定時制の閉課により新たな同窓生の入会も無くなり、また会員の高齢化が進んでいる状況を述べましたが、会長という立場もありましたが、一同窓生として、この会の先行きに対する心配をしております。

この会発足のきっかけは、学生当時の柔道部の先輩とその顧問であった西林敏武先生を中心とした親睦会でありました。今回、第一回開催の集合写真を載せさせていただきますが、これを機に、毎年一回同窓生が集まることになりました。それからは毎年多くの方々に参加してもらい、楽しい時間を過ごす場となり、また有志で親睦旅行に行くなど、先輩後輩がつながる大切な会へ

と発展していきました。その中で、記念事業などへの協力をはじめ、いろいろと母校のお手伝いをさせていただきました。これも、会員各位の愛校精神の賜物であり、会がその精神を育む場であつたのだと思います。

このコロナ禍により、その大切な集まりの機会を奪われてしまいましたが、また先述した通り、会としては会員の減少が進むばかりです。この状況を踏まえて、会が今後ど

(昭和37年定卒)

のような道筋を立てて行かなければならないのかを考えなくてはならない時期が来ているのかもしれない。しかし、どのような道であろうと、これまで「葛の花会」が歩んできた足跡が消えるわけではありません。

また会の動向についてはお知らせできる機会を頂戴したいと思います。今思うところとして記させていただきます。



第1回葛の花会

同窓会事務局の近況報告

同窓会事務局長 阿佐 幸雄
(昭和35年卒)



令和3年度の同窓会活動は、前年から猛威を揮うコロナウィルスにより、1月成人記念同期会、定時理事会そして2月の同窓会総会・懇親会、その後開催予定であった地域・職域の葛城会、各クラブOB会そして同期会など、すべての行事が開催できませんでした。

特に1月9日の「第71期成人記念同期会」は、会場をポートアリーナに設定し、自分たちで会場設営を行うなど手作りで開催寸前まで進めていたものが千葉市からの要請で中止したのは誠に残念でしたが、今年開催することができて救われました。

そのようなコロナ禍の中、常務役員会を6月、9月、11月と3回開催しました。会則にありますが、常務役員会には、会長、副会長、常設委員長、事務局長、次長、会計で構成されています。常務役員会では、令和元年10

月に逝去された石田康治さんの遺産贈与に関連するものが主でした。

令和2年9月に遺言執行司法書士様よりご連絡をいただき、税理士様とのお二人から同窓会事務局で説明を受けました。

遺産の半分を千葉高同窓会へ寄付することと、相続税や事業税などの税務処理の後に同窓会へご寄付いただけるとの説明でした。

遺贈時期は不明でしたが、早速役員で対応について協議いたしました。現状の会則や会計処理の見直しが提案され、協議を重ねて今回の定時理事会に提案した会則・細則の変更案と予算案が出来上がりました。

次頁下に石田さんと同期の園部さんから、彼についての一文と同期会の折の写真を掲載しておりますので、ご一読くださり、石田さんの想いを受け取っていただけたら幸いです。

園部さんも書かれているように有効に活用しなければと心から思います。

同窓会名簿DBの現状

平成28年12月に完成した同窓会名簿データベース(以下DB)は、29年より運用を開始し、明治14年卒から昨年3月卒業の令和2年卒までの、37899名が登録されています。

当初DBは、名簿を発行しなくなり私が管理していたエクセルファイルの保守管理の代替と、同窓会総会参加者の集約を目的として作成しましたが、将来に備えて検索項目をより細分化するなど毎年改定を行っています。

名簿委員を推薦して!

一昨年から信頼できる年度の名簿管理者にIDとPWを発行し、そのIDとPWで年度の名簿データへのアクセスを許可しています。

年度の名簿管理者(名簿委員)には、同窓会の沢田名簿委員長が各自と面談して、DBの主旨とマニュアルを理解していただいた上で名簿委員に任命します。

名簿委員は、DBの同期名簿データの修正作業を行います。DBは個人情報情報の塊ですから、常にセキュリティに留意することが求められます。

各年度の名簿委員は、同期会案内の発送データのダウンロードやDBサイトから一斉メール送信を行うことができます。

会報配布と寄付状況

平成28年からはじめて個別配布を昨年も行ないました。会報送付の折に寄付依頼を行いました。多額の寄付を頂いています。

ご寄付いただいたお陰で、発行部数や個別配布数も増えました。また、多くの方の目に触れることで内容も充実しています。

会報の発行部数と個別配布数、寄付人数と寄付金額は次表のよう

会報寄付者一覧

1万円以上の寄付者名は太文字

(敬称略・卒年順)

【昭和15年卒】

高橋登志男

【昭和20年卒】

中村 彰

【昭和22年卒】

昭和22年卒同期会

齋藤良二

高橋 惟 充

堀 幸 男

【昭和23年卒】

高長谷 禮司

【昭和25年卒】

矢島 肇

【昭和26年卒】

小林 康 郎

【昭和27年卒】

川上 郁

小仲井 誠次

白井 栄 治

中村 作 二

渡辺 誠 治

【昭和28年卒】

相京 溥 士

同窓会報の個別配布・寄付状況

年 度	令和3年度	令和2年度	平成31年度
会報号数	第50号	第49号	第48号
発行部数	6,500	8,000	7,500
個別配布数	3,900	3,500	3,500
寄付人数	231	176	173
寄付金額	1,471,500	866,000	1,020,000

※ 令和4年度の第51号は、7,500部発行、個別5,000部の予定

阿部 公孝	積田 豊生	仁茂田 啓	松本 啓	【昭和29年卒】	塙 登志也	松永 成三郎	松本 生	【昭和30年卒】	飯高 和子	石原 勝子	穴倉 正胤	三宅 茂	宮田 末男	宮原 曉	山下 庸明	【昭和31年卒】	赤塚 光朗	國吉 忠雄	高橋 宏	早崎 胖
三木 敏靖	高澤 正	【昭和31年定卒】	【昭和32年卒】	白井 日出男	小川 金壽	小林 礼子	瀬田 寛子	星 統子	宮原 成雄	【昭和33年卒】	磯貝 正治	大和田 恭	岡本 裕之	川瀬 實	小菅 勝	篠崎 玄幸	瀬山 俊一	土屋 富士雄	根岸 修子	

古川幸子	藤田彰	太田芳則	明羽隆文	【昭和51年定卒】	鈴木一郎	【平成3年卒】	足立知也
村松成夫	堀野雅子	仲田正躬	市原豊	【昭和52年卒】	梅田公利	【昭和52年卒】	武田真一
高仲達也	【昭和34年卒】	長谷川章	高倉史朗	【昭和53年卒】	竹澤容子	【昭和53年卒】	長谷川真
浅井俱子	宮本四洲雄	日置和夫	武田浩一	【昭和45年定卒】	長谷川和良	【昭和45年定卒】	稲田恵美
荒木三喜子	山本康昭	廣瀬彰	徳村万貴夫	【昭和46年卒】	小口学	【昭和46年卒】	佐藤まさのぶ
石井豊信	宮原忍	藤倉國男	水谷正彦	【昭和47年卒】	児玉信一	【昭和47年卒】	中田弥生
小林榮司	伊東優子	松永三和子	浪方日出男	【昭和48年卒】	内藤栄男	【昭和48年卒】	宮原啓史
椎名哲也	伊東隆治	元榮川常	【昭和49年卒】	泉和光	須藤知子	【昭和49年卒】	【平成9年卒】
高田知行	上平隆治	吉野秀男	和田正民	【昭和50年卒】	上原和男	【昭和50年卒】	大門伸之
【昭和35年卒】	王子正彬	和	【昭和41年卒】	泉和光	櫻井英津子	【昭和51年卒】	【平成12年卒】
鎌田修	大森耕一郎	今井和彦	今村正成	上原和男	種谷和信	【昭和52年卒】	戸村理
川島鋭司	小川悦代	今井和彦	今村正成	櫻井英津子	宮下潔	【昭和53年卒】	吉本一紀
菊池祥皓	小倉榮子	小池新	齋藤友博	種谷和信	山田秀二	【昭和54年卒】	依田美佐恵
木下宣世	工藤房子	千葉右子	西川哲男	湯川昌彦	白井護	【昭和55年卒】	【平成13年卒】
鈴木一郎	久保史子	千葉右子	西川哲男	湯川昌彦	寺嶋眞理子	【昭和56年卒】	川崎仁寛
高橋紘躬	澤喜藏	伊藤博史	久保田光一	佐藤鼎	後藤達宏	【昭和57年卒】	【平成15年卒】
高橋淳一	相馬晋吾	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	常包滋也	【昭和58年卒】	平澤智彦
高橋恒久	土肥哲英	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和59年卒】	【平成18年卒】
土岐紘史	長谷川和敏	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	土屋保之	【昭和60年卒】	鹿渡俊介
富澤誠二	長谷川利弘	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和61年卒】	【平成23年卒】
南部泰志郎	林孝二郎	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和62年卒】	小林和貴
三橋裕	日暮久嗣	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和63年卒】	清水翔
長谷川楨一	三宅邦弘	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和64年卒】	【平成24年卒】
【昭和36年卒】	武藤護彦	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和65年卒】	山田智宏
石井従道	森和子	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和66年卒】	【平成26年卒】
北島康史	矢口譲二	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和67年卒】	橋本幹彦
菅原黎明	矢野博子	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和68年卒】	【平成29年卒】
服部孝道	山口光濟	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和69年卒】	江口大志
蛭田隆	山田千樫	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和70年卒】	【平成30年卒】
守田正英	山田雅敏	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和71年卒】	佐藤倫太郎
山田智秋	吉場慶子	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和72年卒】	【平成31年卒】
【昭和37年卒】	浅野邦雄	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和73年卒】	板垣陽子
押尾衛	伊澤勝行	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和74年卒】	大沼あかり
金井輝	磯村浩美	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和75年卒】	守田怜
駒井隆一	板倉喜一郎	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和76年卒】	
辻元洋一	伊藤兼六	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和77年卒】	
中野義澄	宇田川民江	鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和78年卒】	
西村正洋		鈴木弘子	久保田光一	佐藤鼎	鈴木右文	【昭和79年卒】	

石田君を思う

園部 創

(昭和50年卒)

亡き石田康治君とは3年F組で同じクラスになった。勤めた会社は日立製作所。当時メインフレームの開発を行っていた富士通との合併会社ファコムハイタックへ配属となり、いわゆるホストコンピュータHITACの開発に携わった。

世界で唯一IBMに独占されなかった日本市場で、IBM對抗機を作るための国策として、通産省リードのもと大手電機・通信会社による技術研究組合が作られたのだが、石田君はまさにその開発部隊の先頭にいた。

我々の時代は、電話やファクシミリ、コンピュータなどの電子機器が目まぐるしく変革を遂げた時であった。

だが、時代は変わり、パソコ



ンやモバイル端末の普及によって人々の生活が大きく変わったように、システムのオープン化も進み、日立ですらメインフレームから撤退した。

その後彼は日立製作所の公共システム開発部門へ異動した。そんな劇的な環境下で働き続けた企業戦士だった。

石田君は高校を卒業してすぐに、ワンダーフォーゲル同好会OB会の活動に参加した。北八ヶ岳や西穂高独標山行、美ヶ原トレッキングなど一緒に楽しんだ。皆で記念写真を撮る際、彼はけっして前面に出ず、いつも必ず端に立った。

高校の卒業写真もそうだった。体は大きい、周りを気遣う心優しい男だった。千葉高同窓会総会にも我が学年同窓会にも毎回参加した。千葉高とその仲間が本当に好きだったのだと思う。

そんな石田君が千葉高同窓会に多額の寄付をしてくれた。石田君の熱き想いを銘記し、千葉高同窓会として有効に活用していただくことを願う次第である。

支部だより

☆東京葛城会

事務局長 桑野雄一郎
(昭和60年卒)

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、令和3年度も東京葛城会の総会・懇親会は残念ながら中止となりました。

そのような中、東京都の緊急事態措置実施期間を避けつつ4月24日及び10月24日に、上野精養軒の会場とオンラインで接続する方法での幹事会を開催することができました。完全な対面での開催は叶いませんでした

が、上野寛永寺の鐘の音が響く中、参加者の近況報告や今後の東京葛城会のあり方について意見交換をし、楽しく、また有意義な一時となりました。

来年度につきましては、今後の状況がどうなるかわかりませんが、10月14日に上野精養軒を予約し、総会・懇親会の開催を目指しての準備を進めることにしています。

コロナ禍での高校生活が長期化し、教職員や在校生の皆さんも様々な不安を抱えて学校生活

を過ごされていることと思います。卒業生として、また東京葛城会として、できる限りの支援をしていきたいと思っています。

なお、東京葛城会のウェブサイトでは、東京近辺で働く同窓生の素顔を紹介するページを設けています。現在昭和47年卒の長島弘明さん(東京大学教授、日本古典文学)及び渡辺裕さん(東京大学大学院人文社会系研究科、美術芸術学・文化資源学)をご紹介しますが、いずれも楽しい内容となっていますので、お時間のあるときにご覧いただくと幸いです。

☆東金葛城会

会長 佐久間 遼
(昭和33年卒)

新型コロナウイルス感染症禍での活動自粛中ですが、160年以上前に幕末の感染症コレラ等に立ち向かっていた郷土の偉人関寛斎についてご紹介いたします。司馬遼太郎の胡蝶の夢の一節に「関寛斎は九十九里浜付近(東金です)に生まれ、佐倉順天堂で佐藤泰然に学び、開塾以来の秀才といわれ、のちに長崎でオランダ医学をポンペに学



び、戊辰戦争のとき、官軍の奥羽出張病院頭取を務め、福島いわきで敵味方の区別なく治療に当たり、西郷隆盛からその名医ぶりを感嘆された。およそ名利を嫌い、医は貧窮の者の為にあるという信念で徳島で開業し無料で治療した貧民から神の様に慕われる30年の歳月の後、(72歳で)北海道(陸別町)にわたり、開墾村でアイヌや開拓民の治療や種痘を無料で行い、自ら鋤をふるってその死(83歳)まで開拓をつづけた」と紹介されています。

関寛斎が26歳で銚子で開業した際に、津波から村人を救ったことで有名な「稲むらの火」の主人公浜口梧陵の支援を受け、安政5年江戸でコレラが大流行したとき梧陵の要請で、この予防及び治療法を江戸で学び、流行の兆しがあった銚子に治療・

☆成田葛城会

幹事 藤井 大介
(昭和53年卒)

昭和31年卒)の主催で開催しており、次回は令和4年2月12日(土)午後1時から東金文化会館で開催予定です。

毎年11月に開催していた支部総会・懇親会は、今年も新型コロナウイルスの影響で延期です。馴染みの顔に心を寄せて旧交を温め、ご来賓の校長先生から学校の様子を伺い、親交を深めてきた同窓会。皆様はどうしていらっしやるかと思いを寄せています。

20年ほど前まで、成田からは千葉高校を受験できませんでしたが、大学卒業後、成田市内の中学校に奉職した私は、同窓生は

近くにいらないと思っていました。成田市教育委員会に勤務したとき、偶然同窓生が市役所において、成田葛城会があると聞きしました。誘われて参加すると、地域の名士など大先輩方ばかりで戸惑いました。懇親会でお話を伺うと、通学のご苦労など想像もつかない話に、時間が経つのを忘れるほどでした。地域の結びつきを感じ、大切な会だと思いました。

その後、多忙のため疎遠になっていましたが、6年前に当時の成田葛城会会長で米屋前社長、故諸岡孝昭氏からお誘いを受けました。久しぶりに、覚えのあるお顔に接したり、出合いがあったりの楽しいひとときでした。

諸岡氏がその後急逝されたことはとても悔やまれます。

私はその後定年までの2年間、偶然にも地元成田小学校の校長を勤め、学校を支えてくださった方々の中にこの会で出会った方々がいらして、とても幸運でした。同窓会は縁を結びます。

今、成田にも同窓生は増えています。これから新たな縁が広がることを期待して、次の会には多くの同窓生が集うことを楽しみにしています。

☆養信会(葛城会市原支部)

会長 鈴木雅博

(昭和33年卒)

新型コロナウイルス感染禍、最初の緊急事態宣言が令和2年4月7日に発出され、一年半以上が経過しました。依然として安心できる日はまだまだ遠いと感じています。

市原市でも三千三百人以上の方々が感染しており、市内でもクラスターが多発し、地域医療関係者が治療に追われる日々が続きました。私たちの同窓生が医療現場の大変な状況下で活躍されていることに、改めて感謝と敬意を表する次第です。

私たち養信会も、残念ながら総会開催は実現できない状況にあります。養信会の名前にもあります「養老川」「養老溪谷」にも例年どおり紅葉の季節が訪れています。観光客数は、従来と同じというわけにはいきませんが、先日、NHK総合テレビで紹介されたように、地元の方々が、小湊鐵道沿線の環境整備に尽力され、四季折々の花や紅葉、駅舎周辺のイルミネーションなどを楽しむことができます。皆さんも是非足を運んで頂ければと思います。

前回の会報では、チバニアンをご紹介しましたが、今回は、令和4年秋に(仮称)市原歴史博物館が開館します。いちはらの地が人々の生活の舞台となつてから、約三万五千年の歴史があります。国産最古の有銘鉄剣「王賜」銘鉄剣が、国立歴史民俗博物館から里帰りするほか、多くの貴重な文化財を間近に見ることができそうですので、こちらも是非お越しいただけることを期待しております。

まずは、新型コロナウイルスの早い収束、新たな変異株の感染が広がらないことを切に願うとともに、皆様のご健康、ご多幸をお祈りいたします。

(令和3年秋)

☆千葉市役所葛城会

会長 丸山敬子

(昭和55年卒)

千葉市役所葛城会は、現在82名の会員がおり、例年ですと年1回会員の親睦と千葉高同窓会総会の出席者からの総会報告等を聞く集まりを活動としています。時間の多くは、歓談により、高校時代や仕事・家庭の話などに花を咲かせ、日頃接する機会が少ない参加者間の世代を超え

た交流を深め、楽しいひと時を過ごしています。昨年度は、コロナ禍のため、一堂に会することはできませんでしたが、早く以前のような交流ができるようになることを切に願っています。

さて、私が市役所に入庁し、先輩方からお誘いを受け、当会に初めて参加した時は、参加者は今以上に多かったのですが、女性の参加者は一人だけで、諸先輩方々から貴重なお話を伺うことはできませんでした。場違いなところへ来てしまったと緊張感でいっぱいだったことを思い出します。

現在の当会の会員の構成割合は、時代とともに女性が増え、4割近くを占め、新入会員も女性が増えています。コロナ禍前には会員による女子会の開催もできるようになりました。全体会とは違う雰囲気のお店で親睦を深めることで、仕事への活力が生まれ、その時のつながりは今でも様々な面でより良い関係づくりになっています。

今後も、同じ学びを受け、同じ職場を選んだ仲間と親睦を深めていきたいと考えています。お声掛けができていない方をご存じの場合、お知らせください。

☆るのほな一杯会

会長 田邊政裕

(昭和42年卒)

昨年度はコロナ禍のため開催できませんでした。令和3年度は令和3年7月31日(土)、ZOOMのブレイクアウト機能を用いてオンラインで開催しました。

会員は千葉第一高等学校、千葉高等学校を卒業し、千葉医科大学、千葉大学医学部及び医学部附属病院に在籍した、あるいは在籍中の医師および学生であり、今回の参加者は卒業生12名、学生10名でした。

学生は医学部同窓会館に会長と共に集合し、窓を開放して換気を行い、お互いに十分距離を取って着席しました。

小児外科の菱木教授(平成5年卒)にオンラインで医学部の近況を報告していただいた後、昨年度、今年度の新入生が紹介されました。

その後、卒業生と学生を3グループに分けて、それぞれを組合せて3回のブレイクアウトルームを作成して卒業生と学生の懇談会(1回15分程度)を開催しました。初めての試みでしたが、オンラインでの授業など

に慣れているせいか、積極的な意見交換があり、懇親を深めることができました。来年はコロナ禍も治まり、対面での会が開催できることを祈念して閉会となりました。

OB会だより

☆卓球部OB会

常務理事 長内 進

(昭和50年卒)

同窓会報には初めての投稿だと思っております。卓球部OB会のこれまでの活動状況を簡単に紹介させていただきます。

OB会の発足時期は定かではありませんが、今から60年ぐらいい前から本格的に活動していると聞いておりまして、現在の会員数は約600名に上ります。

OB会の目的は会員相互の親睦と現役への支援であり、具体的な活動としては会員による親睦会と、現役といっしょに試合を行う千葉高杯卓球大会を原則として毎年開催しています。

これまでのOB会は千々岩さん(昭和33年卒、平成29年逝去)と石井さん(昭和36年卒、平成30年逝去、元千葉銀行会長)が中心

になって長らく活動してきましたが、お二人のご逝去後は本間会長(昭和38年卒)の下、平成30年にOB会の規約や役員体制などを整備して組織的な活動へと移行しました。

千々岩さんがご存命のときの親睦会の写真は掲載のとおりですが(千々岩さんは最前列の右から5番目)、千々岩さんの薫陶を



受けた会員も数多くおり、故人の遺志を引き継いで、これらのOB会活動をますます活発に発展させていく必要があると考えております。

一昨年からこれまで新型コロナウイルスの影響によりOB会や現役の活動も多大な制限を受けてきましたが、来年度からは新型コロナウイルスの感染状況を極めてつつ親睦会と千葉高杯を再開したいと思っておりますので、会員の皆さまにはよろしくお願い致します。

☆水泳部OB OG会

初代プールは今

葛城水泳会会長 宮下 賢一

(平成2年卒)

5年前、「プール集合！」を合言葉に約20年ぶりに復活を遂げた本会は、世代により競泳と水球で分断された水泳部卒業生が一同に集います。当時顧問だった



た福原先生のご尽力で、初回は18歳から80歳まで総勢75名の卒業生と歴代顧問が参集しました。プールから場を移して行われた総会では、以後9月第1土曜日を目的に毎年行うことが決まりました。

水泳部は昭和5年の初代プール建造と共に創部され、昨年90周年を迎えました。同窓会も周年行事として広く告知を行う予定でしたが、コロナ禍のため敢え無く開催中止。今年も緊急事態宣言下でしたが、2年連続中止となると再び断絶が起きかねません。そこで副会長の吉田さん(平成3年卒)、競泳出身ながら現在安房高校で水球部顧問を

務める吉崎さん(平成26年卒)と私で現役生の激励に伺いました。コロナ禍で練習は元より水質管理もままならない状態でしたが、中止の可能性もある新人戦に向け可能な限りの準備を行っていました。

その後、初代プール跡地を見に行きました。学校敷地西南隅の一段下がった場所があり、跡地にはビオトープが造成されています。先輩方が建立した記念碑があったはずですが、現役生に聞いても知らないとのこと。当時の記憶をたどりビオトープ内を探したところ、入口階段下の叢の中に発見しました。

わずか3年間の在学期間の中で先輩からの歴史を語り継ぐことの難しさを、あらためて思い知らされました。

☆県千葉バレー部OB・OG会

会長 大熊 廣明

(昭和42年卒)

隔年に開催されてきた総会をコロナ禍のため一年延期し今年度11月に予定していましたが、感染状況改善の見込みが立たな

かったため、9月にEメールにより開催となりました。この総会を経て、10月1日から幹事等が新体制になるとともに、会則の一部を改正して顧問が新設され、OB・OG会発足以来、会の運営にご助言いただいていた宮原曉さん(昭和30年卒)と、前会長の木之本省治さん(昭和40年卒)、副会長の古川光一さん(昭和41年卒)にご就任いただきました。残念ながらEメール開催だったため、会員の貴重な交流の場である総会後の懇親会が行えませんでした。次回の総会開催予定は二年後です。ぜひ開催したいと考えています。現役支援については、顧問の先生方とご相談し、前年と同様、ボール10個をお贈りしました。ただ、試合会場に行って直接激励することとはできませんでした。コロナの関係で大会自体が中止になったり、開催されても会場への入場制限があったからです。そのため会場での応援に伴うOB・OGの交流もできませんでした。現役の諸君は顧問の先生方のご指導の下に熱心に活動が続けていますが、初心者が多く、好成績を残せていないのが現状の

ようです。OB・OG会としては、現役諸君が地区大会を勝ち抜き、県大会で多くの試合を体験できるような強化に向けた支援をしてまいりたいと思っています。会員の皆様のご協力をお願い致します。

なお、現役の試合の予定、結果は「県千葉バレー部OB・OG会」のホームページに逐次掲載しております。ぜひ開いてみてください。

☆ラグビー部OB会

会長 長 英連
(昭和52年卒)

昨年来の新型コロナウイルス感染が何度かの感染拡大を繰り返し、行動全般が大きな制限を受ける中で、現役ラグビー部内田組の活動も大きく制約を受けてきました。2020年年末の新人戦支部予選は2戦2勝で終えましたが、続く新人戦トーナメントは中止になりました。続く関東大会千葉県大会では、市立船橋に勝利するもシード校の八千代松陰には敗戦でベスト8ならず。秋の全国大会千葉県大会に向けた夏合宿も2年連続で中止と苦境が続きました。

OB会の行事は、昨年卒業記念を見送った加曽利組を加えて、3月に加曽利組・矢崎組の合同卒業記念懇親会をオンラインで開催し、多数の保護者、OBが



参加して卒業を祝いました。菅平の夏合宿の代替策として、「一般社団法人・スポーツを止めるな」の「学生アスリートに向けたモチベーション維持支援活動」HANDS UP CAMP」の協力を得て、8月6日、7日の1泊2日でオンライン合宿を企画・実行いたしました。当法人の野沢武史氏、廣瀬俊朗氏、ラグビートップリーグのクボタ、神戸製鋼、パナソニックの一流コーチ陣から濃厚に凝縮したプログラムで、頭脳をフル回転させ2ヶ月後に迎える大会の準備を行いました。また8月22日には、壮行会をオンラインで開催し、オンライン合宿の成果をすべて発揮するこ

とを中心に、関係者全てが現役の活動を応援していること確認しました。

このように、コロナ禍が続き、緊急事態宣言が継続する中で、オンラインを駆使して、OB会活動を継続発展してきました。

秋の大会の成果は、予選リーグは2戦2勝、トーナメント一回戦は芝浦工大柏高に勝利、迎えたシード校の東海大浦安高には敗れ、ベスト8には届きませんでした。しかしその戦いは、タックルは粘り強く、ボールの争奪戦でも奮闘し、オンライン合宿で考え抜いたことを100%以上で発揮してくれました。

誰も経験したことのない未曾有の環境変化の中でも、OB会の第一の目的である現役支援にまい進できたことを今後の活動の礎としたい。

☆剣道部OB会

会長 鮫島 啓一
(昭和53年卒)

先日11月3日、全日本剣道選手権大会が例年通りの日程で開催されました。昨年は日程が延期され、また今年は無観客での

開催でしたが、コロナ禍の影響を受けて警察官の出場者が激減し、結果として多彩な職業の剣士たちが集う興味深い大会でした。今後もコロナ対策と共にいろいろな活動が再開されることを期待しています。

この一年間、感染者数の増減に合わせた活動制限や解除により、日々の剣道の稽古も制約を受けてきました。OB会としてもあまり活動できませんでしたが、最近の状況改善に伴い活動を再開しつつあります。残念ながら今年の総会は既に中止を決定していますが、現役部員を含むOB稽古会を母校剣道場にて再開し、また近隣高校剣道部OBとの親善稽古会も近々開催を予定しています。現役剣道部員たちも徐々に稽古に専念する状況にあると思っており、微力ながらOB会からの支援を継続するつもりです。

コロナ禍の状況は改善傾向と思われませんが、今後も状況変化により社会生活に大きな影響が想定されます。一日も早くコロナ禍とともに安定して過ごせる環境を実現し、OB会員相互および現役部員と交流できることを楽しみにしています。

学年短信

●昭和22年卒

斎藤喜久三

昨年に續き自肅々々で、この様な時、すっかり忘れていた、我々在校時代の思い出の作品「文集」を読み返して見ると驚くべきことがある。文中堀幸男兄の昭和17年入学時によれば、国語の時間に渡された教科書に、なんと巻三(2年生用)で穂積重遠の文で藤田東湖の正氣歌の暗唱である。

「天地正大ノ氣 粹然トシテ神州ニ鍾ル、秀デテハ不二ノ嶽トナリ 巍々トシテ千秋ニ聳ユ、注イデハ大瀛ノ水トナリ 洋々トシテ八洲ヲ環ル。發イテハ萬葉ノ櫻トナリ、衆芳與ニ儔シ難シ。凝ツテハ百鍊ノ鐵トナリ 鋭利鑿ヲ断ツベシ」と、出来ないとなかなか歸してくれないで大変な学校に来てしまったと思ったが、次に渡されたのは生徒必携で、常時持つべしで緑色の布表紙葉書半分位で五耗位の厚さで、開いて見ると千葉中校訓より校風迄十五章に及んでいる。

一、忠孝ヲ重ンジ感恩ノ心ヲ養フベシ
二、廉耻ヲ重ンジ自重ノ念ヲ養フベシ
三、禮節ヲ重ンジ敬愛ノ情ヲ養フベシ
一、公德ヲ重ンジ自治ノ風ヲ養フベシ
二、操守ヲ重ンジ向上ノ氣ヲ養フベシ

第一章 修養

本校生徒タル者ハヨク校訓ヲ恪守シ質実剛健和衷協同ノ日常生活ノ中ニ具現スベシ

第五章 願届

欠席、休學、退學、転校、代用服、下駄着用、見學、下宿、細ヤカニ記スコト。
届例
此ノ度身体一部怪我ノ為、体操、教練ノ見學ヲ御許可相成度此段御願候也。

昭和 年 月 日

見學届

昭和 年 月 日

氏名 印

その他 第三章 校外規定

学校ニテ許可シタル場合ノ外ハ活動寫眞、劇場、ソノ他類似ノ場所ニ立入ルベカラズ。随分厳しい学校でこれから五年間上級生は怖いでしょう



か。しかし例年6月には全学年旅行それぞれの方面に行く楽しみもあり、やっぱり千葉中に入ってよかったと感激したこともあった。
校風の和衷協同質実剛健は、第17代名校長西村房太郎先生が、母校百年史によると大正10年9月に、「校風なきは恰も枝葉を養つて根幹を培はざると均し

く、校風の確立は此の如く大切でその目標を示す要がある。」質実剛健、和衷協同の標語はかくして遂に選定せられたのである。これからの校風を胸に県の伝統校として幾多の先輩による築かれたことを大切に後輩諸兄姉には母校の発展に寄與して頂きたい。

扱、我が年度は考えもしなかった戦時3、4年生は勤労動員で勉強したのは僅か2年の學校生活で5年の終戦後は教科書と食糧事情の悪化であったが、それでも社会に出てからも千葉中の在学中の多くの級友達と毎年同期会を開催し、50回米寿記念同期会は母校講堂で開催させて頂き最高の賜物でした。入学1年当初の事を思い出しても矢張千葉中がよかったと、卒寿を令和4年の総会にはもう越えるが待ちどおしい。

追伸 「正氣の歌」

今の1年生で讀めるかしら

●昭和25年卒

矢島 肇

90歳、同期が通り過ぎて行きます。あれ!!彼が未だ通らない、未だ来ない、通らない来ないので

はなく、既に先に逝ってしまったのです。

昭和も遠くなりました。この歳になると身辺整理、断捨離に力が入ります。なかなか捗りません。取分け写真の整理は難航します。戦中戦後は写真どころではありませんでしたから、多少ピンボケであっても大切な一枚です。懐かしい一枚です。

旧制千葉中入学時、いや卒業時になつて数人女子学生が入学して来ました。又修学旅行というイベントもなく、その間は勤労奉仕でしたので、女性との写真、旅行の写真はありません。アルバムも寂しい空しいもので、眺める度、その頃を思い起こしています。現在がなんと幸せな事かと思ひます。そんな青春時代でしたから、いくつになっても幸せの尺度について、若い人とのギャップに戸惑います。恐ろしいものです。

一枚の写真で旧交が暖まりますが、どうも残されている写真の全んどが皆んなが所有しているもので、特に興味あるものは極めて少ない事に気づきます。現代と違ってカメラは高価なもので誰もが簡単に持てなかったのです。当時のカメラは大きく、

重く持ち歩きに不便な上、フィルムが主で撮影後も現像、焼付け、引伸しをしなければならなかったのです。そんな多く写せなかったのです。現在の動画等見る度にあの時代が懐かしいというより残念でなりません。話だけでは説得力が乏しい事この上なしです。

●昭和27年卒(二七会)

会長 中村作二

我が二七会は、隔年に総会を開催して来ましたが、いつも会場にしていた「京葉銀行文化プラザ」が閉鎖したため、昭和27年3月1日の卒業式から66年後の平成30年3月1日を以って、総会も卒業しました。

それまでは、総会の案内と一緒に同窓会報を同封していましたが、全会員に配布していたのは、我が二七会のみだということでした。これは年会費千円を隔年ごとに2千円づつ集めたことから出来たことでした。

令和4年3月末には、全会員が米壽を迎えることになりましたが、まだ半数を超える諸君が元気だと思われまますので、皆の消息を集めてみようと思っています。

●昭和29年卒(福の会)

中村浩紹

コロナ禍騒ぎによる自粛生活で集うことが叶わぬまま、2年が過ぎてしまった。この間に金庫番の小野口勝世君はじめ両手に余る齢85年の友が旅立ち名簿から削られてゆき寂しい。苦楽を共にした友等らの冥福を祈りたい。

先号で、昭和26年入学の我々に訓示された安田裕校長の訓話を紹介させて頂いた。我々が在学した3年の期間、どのような学園生活であったか、その間に発行された「千葉二高新聞」第9号から第23号までの一面記事の主な見出しを反芻してみるとまさに青春の息吹を想い起こさせてくれた。これらを掲出してみた。

本年こそ、元気で集いて語り尽くせぬ程の時間を持てることを願う。

第10号(S26・9・5刊)

- ・記念祭九月二三・二四 予算六万五千圓で華やかに
- ・生徒心得きまる 戦後五年にわたる検討の結晶
- ・痛い授業料値上げ 三五〇圓は関東一

・(論説)青春の意気を高めよ

第11号(S26・9・23刊)

- ・若さで示せ、この伝統 記念祭を前に安田校長語る
- ・(論説)二つの問題

第12号(S27・2・28刊)

- ・卒業生諸君に寄す 信念と誠實をもって 学校長安田裕
- ・教科課程變更 五日制廃止
- ・(論説)生徒会をうれい諸君に訴う

第13号(S27・4・3刊)

- ・根岸会長遂に辞任 當選後五ヶ月にして 役員も總辞職か
- ・文部大臣天野貞祐先生 高校生に講演す
- ・狭き門を突破した人々 東大は二二名
- ・(論説)馬鹿者たれ

第15号(S27・7・16刊)

- ・生徒会長に小川君當選 板坂君は、不信任
- ・生徒会顧問決まる 楠原、山宮、酒井三先生
- ・職員・父兄・生徒合同懇親会(論説)生徒会の危機を救うものは何か

第16号(S27・9・21刊)

- ・記念祭華やかに開幕ス 総予算六萬七千圓
- ・随所に清新な企畫 文化祭の展望
- ・原爆は許せぬ 社会研究クラブ

の世論調査

- ・(論説)学校新聞は如何にあるべきか

第17号(S27・12・2刊)

- ・生徒会役員決定 会長に増田和孝君 会計は無競争
- ・新役員初の評議会 三年生定員外で一もめ
- ・科学技術を發展せよ 創立記念日富塚博士の講演
- ・(論説)新年度への期待

第18号(S28・2・23刊)

- ・生徒會豫算案成る 集會・美化委員會の大幅な削減
- ・生徒会と学校の干渉 評議会で問題化
- ・(論説)規律委員会とその権限 何処迄権限を強用出来るか

第19号(S28・4・25刊)

- ・生徒会の存続意義を認めない 山口会計辞任す
- ・会計辞任のいきさつ(ニュースストーリー)
- ・(論説)山口会計辞任と生徒会

第20号(S28・6・18刊)

- ・延々六時間二十分 六月の定例評議会
- ・規律委員会規則改正 臨時評議会
- ・生徒会顧問就任の挨拶 稲葉正
- ・(論説)虚栄的偏見的言語活動を排せ

第21号(S28・9・16刊)

- ・創立七五周年記念祭の幕開く 四日間多彩な行事
- ・生徒總會流会す
- ・(論説)総会流会のかげに

第22号(S28・11・20刊)

- ・来年度役員決まる 大塚君ら六名 選挙に熟なし投票率は八七・八%
- ・新校旗寄贈さる
- ・七五周年記念行事同窓生慰霊祭も
- ・(論説)現代高校論(高校か予備校か)

第23号(S29・1・9刊)

- ・新規律委員選ばる 三名欠員のまま發足
- ・定員1-2案却下 終業日の評議会島議長辞任す
- ・(論説)規律委員会を再認識せよ

●昭和30年卒(三十年会)

会長 大塚正明

例年6月第1土曜日に開催してきた三十年会総会・懇親会は所謂新型コロナウイルスのため令和3年度も2年続き断腸の思いで中止せざるをえなかった。

細かい経過は省くが、11月に延期しての開催案もやめることとし、会員へのお知らせに添えて三十年会会報7号、伝言板、

千葉高同窓会報50号、令和3年度大学入試集約表を連絡している200名全員に郵送した。

中でも三十年会会報は、令和3年で7号に及び、これまでに50人ほどが寄稿、今号も10人の会員から近況や懐かしい思い出話など多彩な報告が寄せられた。

総会こそ開けなかったが、会報を読んでいると総会の席で、マイクを通して近況報告を聞いているような感じの原稿ばかりだった。

中でも事務局長・早川英明君の「災厄 絆に感謝」は、台風被害とコロナによるスナック店の営業停止という、経験したことのない体験が綴られていた。

西千葉にあるスナック店は1年を通じて、現役時代からの部会や趣味の会が開かれる出会いの場となっている。

あろうことか令和元年台風15号の直撃を受け、2階の屋根が骨組みだけ残し、吹き飛ばされた。職人不足で改修工事が手間取り、約半年後工事が終わっただと思ったら今度はコロナ禍による休業要請。同期で唯一人現役で1人で災難を背負うことになった。

同期の仲間も黙ってはいなかった。いろいろな形で激励、救いの手を差し伸べた。同期の絆に感謝の思いを込めた早川君の寄稿だった。他の9人の報告も総会で話を聞いているような臨場感にあふれていた。

かくて、令和4年こそ3年ぶりの再会を果たせるよう祈るばかりである。

●昭和31年卒(三一会)

山中 齊

2020年3月1日、定例となつて、我ら「三一会」の定例会が、千葉市のホテルポートプラザを会場として開催された。

ところが、その直前の2月27日に、時の安倍首相が、全国の小中・高校等に対し一斉休校の要請をした。

いわゆるコロナ禍のゆえである。

それでも、当日の三一会は参加者少数ながら実施することができた。

しかし、まことに残念ながら、その日を最後に、「三一会」の活動はぶつりと途絶えてしまった。

およそ一年後の2021年1月には、全ての会員に、現下の状況に鑑み、本年の定例会を延

期する旨の通知を出さざるを得なかった。

このことが「三一会」幹事としての最後の仕事であつてはならぬ。との決意を秘め、通知文には、延期の期間は現時点では不明なれど、きつと再開を！との願いを込めた。

されどいまだにその再開の時期は不明のままである。

傘寿をオーバーしている我ら三一会員には、必ずしも残りの人生に余裕があるわけではない。出来れば早く、一日でも早く再開の通知を届けたいと願う毎日である……。

●昭和33年卒

井貫 武亮

私達昭和33年卒業生は、令和元年度に80才を迎え、同期会の一応の終了を確認しました。当時男女合わせて80名が同期会に参加していましたが、有志の声として、定期的でなくても、時機を見て同期会を開くのも良いではないかとの声もありました。

私達は、来年(令和5年)千葉一高卒業65周年を迎えます。石塚眞氏の呼びかけにより、私達有志数名が世話人となって、

この年同期会を開こうとの計画が進んでいます。

80才を過ぎて、あつと云う間に数年が経過しました。まだまだ元気にゴルフなど続ける人がいる反面、病氣など体調不良で苦しんでいる人もおられます。来年は皆、久し振りに集り、元気であつた一高時代の話しや、近況なども話し合い、なつかしさを感ずるのも、生活に彩りが生じて良いのではないのでしょうか。

私は、昨秋紅葉を見に栗駒山へ登りましたが、足腰が思った以上に弱つていて、へろへろになりました。年取って肉体の衰えに、なさけない思いをしましたが、花鳥風月を愛でる時間は、たっぷりあります。同期の皆様と久し振りにあつて、人生の余韻を楽しみたいと思っています。

●昭和39年卒(39葛城会)

畠山 一雄

2021年はコロナ感染対策を取りながら同期会行事を実施しました。39葛城会の仲間はこれら定例行事の他に個別にてゴルフ、ハイイク、登山やミニ湯治等を行い、親睦を楽しんでいます。

4月3日 桜ハイイク・印旛エ

リアに松虫姫伝説と吉高大桜を訪ねて (参加者14名)

コロナ感染拡大で昨年は中止された企画を今年に実施しました。開発進む印西市にわずかに残る里道をたどり「松虫姫伝説」ゆかりの地を訪ね、天然記念物の「吉高の大桜」を鑑賞する「大人のさんぽ」を実施、桜や菜の花等の満開を満喫しました。コロナ感染防止のため、ハイイク後の飲食会は実施せず解散しました。

5月10日 39葛城会春のゴルフコンペ (参加者13名)

恒例の本千葉カントリークラブにて4組で実施しました。好天に恵まれ、コロナ自粛から解放され、和やかにプレーしました。プレー後はコロナ対策されたコンペルームにてソフトドリンクとケーキにて飲食しながら成績発表会を行いました。

11月15日 39葛城会秋のゴルフコンペ (参加者16名)

本千葉カントリークラブにて、4組で実施しました。久しぶりの参加者もあり、再会を喜び、楽しくプレーしました。

11月25日 下総の昔を訪ねて 雑木林をあるく「紅葉が期待される雑木林を歩き、古墳群を巡り、下総の昔の農家・商店・武

家屋敷などを見てまわります。
(千葉県は全国で一番古墳数が多い県だとか)ハイク終了後はコロナ感染対策を取りながらミニ飲食会を予定します。(参加者17名予定)

●昭和39年(定)卒

三井 芳夫

「おい金子君、あとで職員室、来てくれ」

東宝映画「七人の侍」、後にハリウッドで西部劇にリメイクされた「荒野の七人」でナイフ投げの名人を演じた俳優、ジェームズ・コバーン似の山本先生は坂を登った校門の前、仁王立ち服装チェック。シャツの色、柄。

金子は仕事の後、風呂に入ってから登校。昔、近所のおばさんが会社で掛け合ひ、まさるちゃんを夜間部に通えるよう会社に掛け合ってくれた。あれから五十八年、同窓会、西村先生を囲む会、ほとんど出席です。一度だけ欠席、奥様のフラダンス発表会、荷物持ち、マネジャー。夫婦仲はかなり良い。どの様な時も、「アイヨ」です。

定時制卒業後、NTTで定年まで、年金もかなり良い一生付

き合える何人かのひとりです。

多分、昭和50年頃、定時制の女子、「おじさん、これはおみやげ、修学旅行に行ったの」。浅間の鬼押し出しのお守り。三井は、それを大事に大事にまだ持っています。

三十四年に何が！福島県、五色沼から変。昭和三十五年卒、それから後は修学旅行なし。全校で日帰りバス旅行二回あったと思います、必ず39年卒で実行します。

●昭和41年卒

ウェブ運営管理者 藤田 禎祥

「葛城41の会」のこと

昭和41年(1966年)卒業の私たちが同窓会還暦幹事となったのは2008年です。同窓会を盛り上げようと前年、ヤフーに「葛城41の会」なるサイトを設けてメーリングサービスで連絡を取り合いました。当日の参加者521名は例年の倍だったそうです、多すぎて同期参加者206名に別室が用意されたのでした。

ヤフーのサービス終了に伴い、グーグルグループの利用に移りました。上記幹事年の遺産を同



期の交流の場や毎年の同期会連絡などに活用して現在に至ります。このコロナ禍で昨年の同期会は45回目にして初の中止でしたが、今年はコロナがやや落ち着いた12月4日、急遽、開催しました(写真)。宮田幸男君らの幹事団が開催と決めれば、即、サイトに告知し、近況報告込みの出欠表が作成されますので簡便です。

私たちより早くウェブを利用の学年は先輩後輩の方々にも多いことと存じますが、葛城41の

会では、加入希望者の使用メールアドレスを以て会員登録します。投稿があると、D(3年次の組)千葉一郎などとナンバリングされ、即、会員に自動配信されます。ただ、グーグルグループのサービスはウェブ機能が無いに等しく、他の様々なサービスを取り入れて補完しています。投稿数は2015年までは年平均約1100件、その後は年500件ほどですが、東北沖大地震・福島原発事故があった2011年は3000件を超えました。

●昭和43年卒

伊藤 三平

「同期会開催の経緯」

これまでの9回の同期会を振り返りたい。同期会を開催しようと考えている年度の人に参考になれば幸いである。ただしメールもSNSも無い平成の話である。

卒業後25年頃に同期466人の名簿を元に往復葉書で案内を出したのが1回目である。宛先不明で約150通が戻ってきて嫌になる。結局住所不明135人で、出席者は100名であった。以降の経緯は表の通りである。なお当会は参加動員をしない方針である。

住所不明者(逝去者もいると思う)は開催を重ねるごとに情報が集まり減少して、今は80人(17%)。還暦以降は搜索もしていない。会費は、還暦までは全同窓会の為に余剰金確保に努めたので1万円。以降は余剰金吐き出しで5千円である。第9回はホテルへの実費である。遠隔地参加者の割引も検討したが、参加者推移でもわかるように、

千葉高昭和43年度卒業生の同期会実施状況

	第1回 卒業後25年	第2回 卒業後30年	第3回 卒業後35年	第4回 卒業後40年	第5回 還暦時	第6回 卒業後44年	第7回 卒業後46年	第8回 卒業後48年	第9回 卒業後50年
開催時期	1994年2月 平成6年	1998年9月 平成10年	2003年6月 平成15年	2008年4月 平成20年	2010年2月 平成22年	2012年10月 平成24年	2014年9月 平成26年	2016年10月 平成28年	2018年11月 平成30年
我々の年齢	44～45	48～49	53～54	58～59	60～61	62～63	64～65	66～67	68～69
出席者数(人)	102	98	99	110	108	105	123	107	102
出席者／同期人数(466)	22%	21%	21%	24%	23%	23%	26%	23%	22%
会費(円)	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000	5,000	5,000	8,000
住所不明者(人)	135	89	76	72		80	住所不明者の探索はしない		
逝去(人)	10	12	17	21		30	33	39	42
名簿作成状況	○	○	○	○住所秘匿有り	近況報告のみ	近況報告のみ	近況報告のみ	近況報告のみ	メールの近況報告
近況報告の掲載数(人)	100	135	137	114	96	161	168	188	124

(注)個人情報保護法は平成17年に施行。以降、厳しくなる。還暦までは5年おき、第5回の還暦時は千葉高全体の同窓会時に実施。以降は2年おき。10回はコロナで中止。

半額にしても100人前後と出席者は増えないのが同期会。ただ第9回時に始めての参加者が4人おり、一度でも参加した人は235名で同期の半数を超えた。常連の40人弱が幹事の支えである。名簿は個人情報保護の観点から平成20年を最後に作成していない。この時も希望者の住所は不掲載だ。その代わり、近況報告集は充実させており、第8回では188人分と壮観であった。そして第9回はメル判明者(約250人)だけへの案内に割り切り、近況報告数も減少している。

●昭和44年卒

森 茂

『キャリアオーバー』
令和2年秋に開催を予定していた「古稀記念」同期会は、コロナウイルス禍蔓延のため翌年へ延期、そして令和3年秋も再延期。このようにコロナ禍の所為とはいえ同期会のキャリアオーバー(持ち越し)が続くと「古稀」が段々と過去方向へ遠退き、次第に平均余命が近付いて来ることに相なります。

70歳の平均余命は16年。ご多分に漏れず身体のうちこちにガタが出始めて健康寿命(健康な状態で日常生活ができる期間)の満了がもう目と鼻の先に迫っている状態です。

「老い」が間違いなく到来しつつある中、老いとの勝負に決して負けない方法があると言います。それは、老いとの勝負を続けること。続けていけば負けにはならないという訳です。

あるいは、『赤毛のアン』のように「一生懸命やって勝つこと」の次に良いのは、一生懸命やって負けること」という方が好みかも知れませんが。

いずれにせよ、何事かに一生懸命に、前向きに取り組むという姿勢は、これからの残り時間の過ごし方としても大切であるように思われます。

次の節目は「喜寿」。昭和・平成・令和と平和な世の中で年齢を重ねてきた私達の集大成の秋です。一日一日を一層大切にしたいものです。

※キャリアオーバーの古稀記念第7回同期会は令和4年10月23日の予定です。コロナが鎮静化し、皆さんと元気でおいでできることを祈っています。

●昭和50年卒

園 部 創

令和3年11月に5年ぶりの第6回学年同窓会を開催する予定で京成ホテルミラマールを予約していた。我が学年同期のほとんどがワクチン2回接種を早くに終え、久方の集まりに期待していたのだが、会場仮押さえの限界である9月上旬時点で我々世代以外(ホテル会場スタッフや2次会以降の会場スタッフ等)へのワクチン接種が遅れていたこと、大人数での2次会以降の会場押さえが感染対策の關係から困難であったことから、令和3年の学年同窓会は見送ることとした。

デルタ株どころかオミクロン株まで発生し、次から次へと強力な新しいコロナウイルスが誕生してくる、まさにウィズコロナの中で、今後どうやって感染せずに残りの人生を楽しむのか真剣に考えなければならぬ事態になってしまったが、それでも令和4年の秋には何とか学年同窓会をオンラインでは無いface to faceで開催したいと考えている。コロナウイルス

スの感染状況、行政による感染対策実施状況、会場となるホテルや飲食業界の動向を見守りながら開催の可能性を検討したい。

●昭和54年卒

加藤 雅哉

私たち昭和54年卒は、本来は2021年2月の同窓会・総会(以下、葛城会)の幹事学年でした。前年の葛城会開催後、現在同窓会の副会長である池田知行君を中心に、開催に向けた準備をスタートした直後、未曾有のコロナ禍に見舞われ、結局昨年の開催は見送りととなりました。本年の開催もかなり厳しいと考えておりましたが、正にこの原稿を認めている最中、同窓会常務役員会が「来年2月の開催を決定した」との連絡を池田君から受けた所です(注:21年11月20日現在)。今般の開催は、幹事が54年卒と55年卒の2年合同となる事、例年であれば半年以上の準備期間で進めていくのに対し正味2か月で準備を行わねばならない事、そして足許は感染状況が沈静化するとは言え、参加者の安全を確保できる開催形態をどうするのか等、開催に

向け例年になく多くの課題を抱えております。

そうした中、私事で恐縮ですが、私は2019年6月から、会場のホテルミラマールの社長を拝命しております。葛城会を始めとする千葉高関連の会合、そして県内、市内の様々な方々から幅広くミラマールをご愛顧頂いております事、改めて御礼申し上げます。

元々、同期会の幹事役の一人を務めておりましたが、葛城会につきましては、私は幹事役と会場運営側の双方を兼ねる立場となります。ミラマールとしてもしっかり対応して参る所存ですが、葛城会開催時にコロナ禍が落ち着いている事、そして2年ぶりの会が皆さまがご満足頂ける形で開催出来る事を心から祈っている次第です。

●昭和61年卒

幹事 増田 淳

高校時代は社会のことを真面目に考えていたけれども、関係各位には迷惑をかけた。ある日の放課後は、選挙の演説会場に行つてヤジを飛ばし、妨害により御用。またある日は、某大企

業の公害を糾弾すべく、正門前でプラカードを掲げて示威行動を行い御用。社会変革への熱い思いが、直接行動に結びついてた。昭和晩期、日本が国際社会におけるプレゼンスを高める中で、内外にひびきが生じていた時期の一コマである。

3年の夏、日航機123便墜落事故が起きた。夏休み明け、同級生の間で次のような会話が交わされたのを覚えている。「本当は墜落されたのでは？」「墜落直後は、もつと生存者がいなかったのはなぜ？」固唾を呑んで報道を見守ったが、「何か重大なことを隠している」誰もが直感的に感じ取り、社会の闇を垣間見た気がした。この瞬間、明らかに時間の流れが変わった。

過日、緊急事態宣言が明け、いつものメンバーで集まったのだが・・・何やら重苦しい、相手の出方を窺うような茶会となった。それでも精一杯にコロナ禍の現状を分析し、次のような会話が交わされた。「これは戦争だ」「事故ではなく、事件だ」「自粛・統制・同調が全ての分野に及ぶ。少なくとも戦時下では

あると思う。また、事故は偶然だが、事件は黒幕によって周到に企画される。奇しくも高3の夏と同じ干支が巡り、歴史は一本の糸でつながっていると改めて体感した再会であった。

●平成12年卒

東 寿浩

平成12年卒の同窓生は、今年度、40歳になる人が大多数を占めています。高校を卒業してからの人生の方が長くなってきたというところがまだ不思議な感覚ですが、社会人としては中堅の域に入り、公私ともに多忙な日々を過ごしています。

仕事での裁量が大きくなってきたからか、同窓のネットワークが仕事に生きることも増えてきました。私自身は編集者として今までに何度か千葉高卒業生の著作を世に出してきましたが、2021年も卒業生の作品を刊行することができました。いずれは著者葛城会などもできたら面白いのではないかと妄想してしまっています。日々忙しく過ごしていると、「もう年末か・・・」というのが実感で、つい先日昨年の近況を書いたような気がしてしまいます。

たような気がしてしまいます。コロナ禍で不便な日々が続きますが、年末には小規模ながら忘年会を開催できそうです(執筆時点での直感ですが)。少しずつ風向きも変わりつつあるのではと期待する一方で、まだまだ不安要素も多く、同窓の医療従事者の奮闘話を聞く度に頭が下がる思いです。

去る10月26日に千葉高で2年生を対象に、卒業生座談会を企画させていただきました。コロナ禍なので全体で集まることはなく、事前に話を聞く人を決めておく形式でしたが、実施できたことがまず前進だったように思います。今後も卒業生ができる関わり方を探っていきたいと思っています。

●平成18年卒

戸澤 庸子
(旧姓 長尾)

友人に直接会えず、旅行に行けず、鬱屈とした日常になりがちなコロナ禍において、絵画や音楽のありがたみが身に沁みている方も多いのではないのでしょうか。今年は芸術分野で活躍する同級生をご紹介します

(本人了承済)。

後出 恵(画家)

ここではないどこか、触れるようで決して触れられない空気感。静かな青や灰色などの淡い色彩で紡がれる風景が私は好きです。「人がどのように生きていくのか」を問いかける彼女の絵は、身近なものをモチーフとしながら、観る人を海の底のような静かな世界に連れていきます。

高校時代は美術部。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。新作並びに展覧会情報は [twitter@mngmu4rd](https://twitter.com/mgmu4rd) で更新されています。ギャラリー龍屋さんの作家ページでも、最近の彼女の活躍をご覧いただけます。

内藤 希花

(フイドル・アイリッシュユーハーブ
& コンサーターティーナ奏者)

初めて彼女の演奏を聴いたとき、言葉よりも前に涙が出ました。

高校時代はオーケストラ部。横浜国立大学医学部医学科卒業。医師免許を取得後、アイルランドと日本での本格的な音楽活動を行われています。2018年に

は葉加瀬太郎さんの推薦で、今後世界で活躍していく若手の音楽家に贈られる第15回ベストデビュータレント賞を受賞されました。FBページ(marketa.naito)やHPではたくさんさんの演奏をお楽しみいただけますので、是非ご来訪ください。

●平成31年卒

卒後第1回同期会

第71期同窓会長 野木海斗

令和4年1月9日(日)、ホテルミラマールにて、卒後第一回同期会を開催いたしました。

この会は、千葉県立千葉高等学校同窓会のご支援のもと開催されました。第71期生一同心より感謝申し上げます。今回の同期会では、恩師の先生方4名、林会長をはじめ同窓会役員の先輩方4名、そして同期180名の計188名に参加いただきました。この場をお借りしまして、会の運営にご尽力いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、我々の代は去年開催のはずだったのですが、新型コロナウイルスの流行により中止を余儀なくされ、この代の同期

会とはなくなってしまったのかと、正直痛恨でした。しかし今年、新型コロナウイルスの沈静化と、同期の開催したいという熱意からこのような素晴らしい会を開くことができました。しかし、開催が決まってからの日々は不安の連続でした。期間の短い中で会場を探し、再び同期の皆さんの出席を集め、当日の運営に関してもかなり急ぎで計画が組まれ、不確定要素がかなり多い中でのイレギュラーな開催だったからです。それでも当日同期の皆さんの顔を見てそのような不安は吹き飛びました。皆見た目は大人びながらも、思い出話に話を咲かせ見せる笑顔、それだけで報われたと思えるような有意義な時間だったと思います。恩師の先生方に関しまして、このような世情の中も変わらずお元気そうで何よりでした。あの頃先生方の頂いた教訓が、今も私たちの生き方に強く根付いています。あらためて、お世話になりました。これからもご指導よろしく願います。

今回参加されなかった恩

師の先生方や同期のみなさん、次の機会にお会いできればと思います。

最後に、何もわからない同窓会幹事に手取り足取りご教導下さりました、阿佐事務局長や沢田名簿委員長には感謝しきれません。お骨折りいただきありがとうございます。そして、僕の手際が悪かったせいで直前をお願いすることになってしまった、写真撮影前のスピーチを考えてくれた生徒代表の方々、心から感謝申し上げます。

次の同窓会は9年後、30歳の時に開催する予定です。またお会いしましょう。



●令和2年卒

成人記念第1回同期会

第72期同窓会長 勝部恭平

令和4年1月8日(土)、京成ホテルミラマールにて、成人記念卒業後第1回同期会を開催いたしました。

この会は、千葉県立千葉高等学校同窓会のご支援のもと開催されました。この度はこのような素晴らしい会を開いていただき、72期生一同心より感謝申し上げます。この場をお借りしまして、阿佐事務局長をはじめとする千葉高の先輩方、そして会の運営に関わって頂いたすべての方々に厚く御礼申し上げます。コロナ禍にあり、例年とは異なる形での開催となりましたが、同窓会役員の皆様6名、恩師の先生方8名、そして同期255名の計269名に参加いただきました。

卒業から間もなく2年が経とうとしています。この2年、世界では新型コロナウイルスの感染が収まらず、これまで簡単だったはずの「友達に会う」ということへのハードルが一気に上がってしまったように思いま

す。そのため、この同期会にて卒業以来の再会となる人も多くおり、同期会前はちょっとした緊張と楽しみが入り混ざった気持ちでいました。しかし、いざ会ってみると一瞬で打ち解けることができ、勉強や部活に打ち込んでいた高校時代に戻ったかのようにでした。思い出話や今の生活の話、そして将来の話に花が咲き、あつという間に時間が過ぎました。

恩師の先生のスピーチの中で、「千葉高は入学した時より卒業した時、卒業した時より卒業した後に、その素晴らしいと感じることができ」というお言葉がありました。今回の同期会はまさにその言葉を実感できる、とても充実した会となりました。そして、今後にも繋がる、素敵な機会になったと思います。

次回の同期会の開催は、私たちが30歳を迎える10年後を予定しています。その時に私たちがどう変わっているのか全く想像が付きませんが、何はともあれ、この最高の仲間とまた集まれることが今からとても楽しみです。今回残念ながら参加が叶

わなかった恩師の先生方や同期の皆さんにもお会いできればと思います。

これから先も、千葉高での仲間を一生大切にしたい、そう強く思わせてくれる同期会でした。本当にありがとうございました。



葛城人脈 ⑦

須藤 輝男さん(昭和51年卒)
須藤 大さん(平成22年卒)

千葉高が創立されて140余年。葛城台から数多の卒業生が巣立っていったが、この「葛城人脈」では、今まさに活躍している卒業生へのインタビューを通じて、チャレンジ精神の源流に迫る。今回は親子で同窓生の物語である。聞き手は東寿浩(平成12年卒)

初の親子企画

――初の親子企画です。

須藤 大(以下、大) 緊張しますね(笑)。

須藤 輝男(以下、輝) こういう機会はないからね(笑)。

――ついお父様に遠慮しちゃうとかあるかもしれませんね。じゃあまずはお父様にお話を伺っていいのでしょうか？

輝 どうぞ。

――親子で千葉高ですか。

輝 しかも中学校も一緒です。代々幕張育ちで、幕張中も一緒。

高校入試・親子の違い

――高校入試はそれぞれどんな感じでした？

輝 私の頃は本番一発で、一般入試だけ。ちよつと下の代で総合選抜があったけど、私の時は、振り分けられるということもなかったです。

大 僕の頃は特色化選抜と一般入試があり、僕は特色化で受かりま

した。

――推薦入試から変更になった制度ですね。定員の何割かを学校独自の基準で選抜していくという制度ですが、千葉高は五教科の独自入試でした(その後、前期・後期制度になり、現在は再び一本化されている)。難問を短時間で解きまくるって聞いたのですが、どんな感じでしたか？

大 そうですね、よくわからない問題をよくわからないまま何とか解いていったら、その結果、受かっていったという感じです。司法試験もそんな感じでした。

――難問が多いと手ごたえがわかりにくいですね。塾などはいっていいのですか？

輝 私の頃はあまりそういう受験産業が多くなくて、せいぜい英語塾に行くくらいだったかなあ。

大 僕は検見川の市進学院に通っていました。幕張は塾があまりなくて。

――僕も市進でした(笑)。やっぱりお父さんが通っていた学校という意識はありましたか？

大 いや、そうでもないですよ。「あー、同じなんだー」というくらい(笑)。それより公立のトップだからということの方が自分の中では大きかったですね。

――またまた(笑)。でも同窓会総会には一緒に参加される印象ですが。

輝 まあ、一緒に行っても席が離れていたり、話している相手が違ったりしますから、そんなに親子ですつと一緒にいるわけではないですよ。

――昭和51年卒の先輩方は同窓会にも大勢いらして、多士済々という印象です。

輝 まあ、以前からよく集まっていたね(笑)。うちの学年でも、何人か、子どもさんが千葉高に入つたという話は聞きましたが、確かに一緒に来ているのはいいかな。

高校生活・昭和と平成

――お父様はバスケットボール部でした。

輝 そうですね。でも、人数が少なくてあまり強い代ではありませんでした。

――大さんと一緒にバスケットをしたりとかは？

大 なかったような気がします(笑)。そもそも僕自身があまり運動するタイプじゃなかったの。

輝 中学校の部活は卓球だったよね。

大 休日とかも運動するというよりは友達と遊んだりする方が多

かったですね。

――高校では部活とかは？

大 部活には入っていないかったですが、一番の思い出は文化祭です。高3の時にはクラスでお化け屋敷を作りました。仕切りを段ボールで作ってスズランテープで吊るしたり、クライマックスに滑り台を作ろうということで担任の先生に相談して、材木屋で足場の材料を買ってきて作ったり、という感じです。

――一階だから多少外にはみ出ても大丈夫そうですね。そういうえば中庭に畑は作りました？

大 やったかな？ でも秋に焼き芋を食べたような気がするの、で、多分作っていたんでしょうね。

輝 そんなこと昔はなかったような…。

――私たちの頃からやっていました(笑)。あと、文化祭ではミスコンをやりましたの私たちの頃から。

大 代々3年H組がミスコンやってきましたね。

――あれは、私の上の代(平成11年卒)の3年H組がミスコンを企画して、その次の年にうちの代の3年H組がやつたら、その次もそうだったという…。大富豪の「縛り」のような感じかしれないですね。

輝 文化祭、クラス対抗で女装コンテストとかやっていましたよ。

――誰が出ていたのか気になります(笑)。

ちよつと遠い大学

――次は大学時代について伺いたいです。お二人ともちよつと千葉から遠くの大学ですね。

輝 慶應義塾大学の工学部(現・理工学部)に進みました。

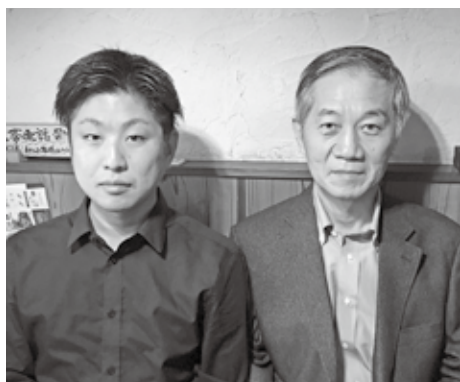
――矢上東急東横線、日吉駅から歩くですね。理系って授業も大変だと思うのですが、下宿はされなかったのですか？

輝 下宿しようとも思ったんですが、結局しないで通いました。専攻が管理工学だったので、実験が少なかつたこともあって何とかなりました。機械工学科や電気工学科だと実験も大変だろうけど、管理工学だと自分のペースでできるということもあって。その中でも統計学を中心に勉強していました。卒論は多変量解析についてでした。

大 最近まで多変量解析の本とか家に置いてあったよね。今の職場で統計に近い仕事に関わることもあり、ちよつと勉強しなければならなくなつて、「ああ、父はこういうことを勉強していたんだ」って思ったりします(笑)。

輝 もともとコンピュータ関係の勉強をしたかったこともあって、そういう専攻のある理系学部を中心に受けていて、慶應に決めたという感じです。

――大さんはさらに遠くの八王子ですが、通いました？



Profile

須藤 輝男 (すどう・てるお)

1957年生まれ。千葉高時代はバスケットボール部に所属。慶應義塾大学工学部卒業後、一社を経てグローリーで勤務し、昨年退職。

須藤 大 (すどう・まさる)

1991年生まれ。千葉高入学前から法曹界への進路を意識し、高校時代にインターンシップなどに参加。中央大学法学部、慶應義塾大学大学院法務研究科を経て、2016年度司法試験合格(70期)。一般民事の法律事務所を経て、ラクスル株式会社勤務。

輝 高校の時にインターンシップに参加していたよね？

大 まじめにしていた頃笑。
—— 輝 高校の時にインターンシップに参加していたよね？

大 大学は中央大学の法学部に進みました。最初は頑張ってたんですが、司法試験を目指す人向けの講座が夜6時から入って、終わって帰ると日付が変わるという感じだったので6月には下宿をすることにしました。

—— 法曹界を目指す人が多いところですよ。もともと法曹界への進路を考えていたのですか？

大 そうですね。中学生くらいから法曹の道に進もうと思っていました。当時は「HERO」や「ピギナー」などのドラマが流行っていたので、それで憧れたというのがあります。あとは「行列のできる法律相談所」がまじめに法律の話をしていて面白かったので、興味を持ちました。

—— そしてロースクールへ。

大 そうですね。炎の搭の中には研究室もあるのですが、あとは司法試験を目指すためのサークルのようなものがあり、そこに入ってから勉強していました。それと、法律の討論をするサークルを掛け持ちして活動していました。討論の方のサークルでは他大学の法律系サークルと討論をしたりしましたね。

—— 私のもでもです(笑)。中央の法学部という「炎の搭」という勉強施設が有名ですが、やはりそういうところも使った勉強した？

大 はい。千葉市内に高校のOGの先生の方の法律事務所があって、インターンシップで3日くらい仕事の体験を高1のときにさせていただきました。

大 慶應の法務研究科に入りました。同じ学校に！
—— 奇しくも大学院でまたお父様と同じ学校に！
大 トップクラスの先生方が集まっていたので。特に民法が強かったですね。

それぞれの就職と転職

—— それでは、お仕事の話に移っていききたいと思います。

輝 大学卒業後、ある会社に入ったのですがあまりにもきつかったので一年でやめ、グローリーという貨幣処理機のメーカーに移りました。姫路に本社があり、技術研修ということで3年間姫路で働いて、その後五反田の事業所で勤務して、去年退職しました。

—— お仕事は忙しかったですか？

輝 製品開発も終盤に入ると帰りも遅かったもので、なかなか家庭の面倒を見ることもできなかったですね。今の時代は昔に比べると残業も減って、大分働きやすくなったのではないのでしょうか。

—— 社会環境も大分変わってきていますし、確かにそうかもしれませんね。
大 僕は法科大学院を出た後、司法修習を経て法律事務所に入職しました

が、企業法務に興味があり、転職して今はラクスルという会社の法務部に勤務しています。

—— いわゆるインハウス・ローヤーですね。転職して仕事内容は変わりましたか？

大 大分変わりましたね。共通点は法律を扱うことくらい。以前は例えば離婚、破産、刑事裁判などが中心だったので、離婚だったら民法自体よりもお金に関する裁判例を見ながら戦略を立ててやるスタイルで、法律自体は見なかったですね。今は契約書を作るにしても民法を見ながら、自社側にどのくらい有利にするかなどを考えていくので、法律の条文を読む機会が増えました。それで裁判例を見るというよりは、契約書の条項とリスクを勘案しながら詰めていく作業が主になっています。企業もコンプライアンスやレピュテーションリスクを重視するようになってきたので、今後ますます拡大していく領域だと思っています。

次のステップへ

—— 今後はどんなことをやっていきたいですか？

輝 そうですね。ひとまずサラリーマン生活には一区切りついたので、ちょっとゆとりしてから、また外に出て何か新しいことをやってもいいかな、と思っています。もともとソフトウェアの開発をやっていたので、小学校とかでコ

ンピュータの使い方をレクチャーすることができたなら面白いかな、と。

—— 学校の先生もどうやって教えられるかわからないかもしれないですね。

大 今はタブレットとかを支給したりしているようですしね。

—— 大さんの今後の予定は？

大 まずは会社員としてやっていきたいという思いが強いですが、経営者になりたいとかではないですが、法律のことだけではなく、企業にかかわる多くのことを勉強していきたいと思っています。今の会社が古い業界をデジタルの力で変えていくという目標をもってあるので、デジタルの知識も欲しいです。統計や知財の勉強もしたいのかな、と。

—— プライベートの方は？
大 中学校の同級生と結婚しました。

—— 地元で固めましたね。いつから付き合ってたんですか？

大 司法試験が終わった2016年の5月からですね。9月に合格発表があって、司法修習が始まって、就職した2018年の8月に結婚しました。

—— 怒涛の勢いですね(笑)。プライベートも充実されているようで、うらやましいです。今日はありがとうございました！

輝・大 ありがとうございます。

同窓会の母校支援活動

社会人講演会への講師派遣

【高校への講師派遣】

高校では「総合的な学習の時間」で、活躍中の先輩から最新の事情や進路上の心構えなどを講演してもらおう講師派遣を行っている。

6月の1年総合学習・外部講師講演会では、本年の同窓会総会の幹事学年、昭和54年卒から龍崎孝氏に講演をお願いした。



龍崎 孝氏(昭和54年卒)の講演

【高校2年生対象講演会

「先輩に聞く」の生徒感想」

講演者(東 寿浩 先輩)

将来就きたい職業などはまだ明確ではなく、やりたいことを探している中、大学、そして編集者というお仕事についてお話を聞けたことで、自分の興味が広がりました。メディアと聞く、よく見るテレビなどに関わるものというイメージでしたが、本がとても好きな私にとって活字メディアも魅力的だなと感じました。また、法学部を卒業された後に、編集の仕事を選ばれたことに少し驚きました。大学では将来の職業にとらわれすぎず、自分の興味を優先して学部を選ぶうと思います。

講演者(桑原沙耶 先輩)

日本の医療現場について赤十字病院の存在や国債の発行超過で危機に際していることは全く知らなかったもので、今のあたりまえが持続可能ではないということ

を思い知りました。後4年もすれば債務超過、そのツケを払わされるのは私たちだということ、今までよりも現実味を帯びてきました。私は将来、経済学の分野から、環境保全、気候変動対策と経済成長とを同時に進められる経済モデルを作りたいという夢があります。これらを担う自分たちの世代のために頑張ります。

講演者(佐々木俊介 先輩)

一度決めて手についた研究や業務内容も少しずつ変化しているということを知りました。また、その応用先も変わっていくため、対応能力を上げ、守備範囲を広げていくことが今後大切になっていくと思いました。基本となる内容は変わらないとのこと、これまで積み上げてきたものが無駄になってしまいうことは無いのだと知りました。講演において、私たちにできることに焦点を当ててくださり、とてもモチベーションが高まりました。時々、考えてしまふ、「これって何の役に立つのだろうか」ということを具体的に示してくださり、将来をより明確に見据えることができました。

講演者(鈴木祐介 先輩)

色々な方々に導かれて、今の

職業に就き、様々な方を救おうと奮闘されていることに感動しました。私も、苦しんでいる人がいるのを見ると放っておけず、将来も、「孤独な人を絶対つくつてなるものか」という思いをもつて色々な方々に関わっていきたいと思っています。しかし、今、友人から悩みの相談を受けても、その友人の心を少し軽くすることはできても、「本当に救えた」と感じられることはありません。そんな自分が嫌いで私自身が孤独に陥り、希望を忘れてしまっていました。これから、先輩のように本当に人の心を癒やせるようになっていきたいと思いました。ありがとうございます。

【会報送付希望の方へ】

同窓会報が卒業生と母校の共通話題となるようお送りします。ご希望の方は、同窓会に氏名・卒業年・ご住所をご連絡ください。

送付申込はホームページからお願い!!

●個別送付のご寄付は下記宛てにお願いします。

ゆうちょ銀行 00140-6-336678

加入者名 千葉県立千葉高等学校同窓会

事務局 〒260-0853 千葉市中央区葛城 1-5-2 千葉高校内

☎043-239-5550 FAX.043-239-5551

美術館の倉庫に残る卒業制作作品の回収にご協力を!

美術部の同窓生が卒業生時に制作した作品が、現在も記念館内の倉庫に多数収納されているのが判りました。(左写真 直射日光が入るガラス窓のある部屋で、もちろん空調設備もなく、劣悪な環境下にあります。)

今後、作者による作品の引き取りが必要になるかと思いますが、学校としては具体的なことは検討中と聞いています。

同窓会は、今後とも学校の運営に対し協力する所存でいますので、関係の同窓生、心当たりのある同窓生の皆様は、是非ご連絡いただきますよう、お願いいたします。

同窓会のホームページの情報連絡から、またはFAXよりご連絡くださるようお願いいたします。



令和4年度 定時理事会報告

本年度令和4年の同窓会定時理事会は、1月22日母校講堂で開催されました。昨年は三密を避け講堂での開催を案内し、出欠確認のさ中に緊急事態宣言が発令され、急遽中止しました。

同窓会規約では、定時理事会に出席した理事の多数により議決し同窓会総会で報告されます。そのため昨年は緊急措置として、出席もしくは欠席連絡のあった理事諸姉諸兄に、理事会資料を送付し、議決事項の認否をお尋ねしました。

今回は年度決算・監査報告、事業計画など通例の議案のほかにも、ご審議いただきたい重要な議事がありますので、リアルな理事会とできますよう母校と協議し開催しました。

理事会当日午後2時、講堂には理事44名と今年度総会幹事学年昭和54・55年卒の代表2名、そして加藤校長以下10名の学校側職員の出席がありました。同窓会役員は、林孝二郎会長、森戸谷・先田・池田の副会長4名、阿佐事務局長および川島次長ほかが出席しました。

林会長挨拶、加藤校長挨拶の

のち、会則に則り林会長が議長となつて議案を審議しました。

議案は以下の6議案です。

議案1 令和3年度事業報告

年初1月の平成31年卒成人記念同期会、定時理事会、2月、

同窓会総会・懇親会中止、続く地域・職域等の葛城会やクラブOB会、同期会等のイベントもほぼすべて中止となりましたが、3月卒業記念品(卒業証書ホルダー)の寄贈、同窓会報50号の発行ならびに約4千部の個別送付、卒業

生講演会への協力、令和4年に向けた成人記念同期会や総会・懇親会の開催準備を進めました。

議案2 令和3年度決算報告

並びに監査報告

前記の状況でイベント等の中

止に伴い、同窓会会計は事業費、運営費とも縮小となりました。※同窓会報郵送の際などにご案内する「会報寄付金」が、寄付人数231名、1,471,500円と人数・総額とともに新記録になりました。

2021(令和3)年度 同窓会会計決算書

令和3年1月1日～令和3年12月31日

1. 収入の部

総額 4,886,848 円

区分	予算額	収入額	増減	備考
繰越金	1,862,352	1,862,352	0	
同窓会入会金	1,600,000	1,552,500	-47,500	
寄付金	300,000	0	-300,000	
会報寄付金	1,000,000	1,471,500	471,500	
雑収入	348	496	148	預金利息
計	4,762,700	4,886,848	124,148	

2. 支出の部

総額 2,522,381 円

区分	予算額	支出額	予算残額	備考
(1) 事業費	3,310,000	1,872,191	1,437,809	
卒業記念費	150,000	129,052	20,948	卒業証書ホルダー
会報発行費	460,000	423,500	36,500	同窓会報50号印刷
会報配布費	750,000	744,705	5,295	同窓会報個別50号発送
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校総合学習
学校活動振興費	100,000	0	100,000	中学校社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打ち合わせ
支部援助費	300,000	0	300,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	1,050,000	99,384	950,616	成人記念同期会
名簿管理システム整備費	300,000	385,550	-85,550	名簿管理システム維持
(2) 運営費	1,060,000	650,190	409,810	
会議費	100,000	71,772	28,228	理事会・常務役員会
印刷費	170,000	217,098	-47,098	総会理事会資料等印刷
通信費	300,000	255,770	44,230	総会・理事会案内はがき・電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	0	150,000	会長渉外費
事務局関係費	130,000	36,916	93,084	ホームページ維持管理・事務用品
事務局整備費	80,000	65,780	14,220	事務局通信機器等整備
雑費	80,000	2,854	77,146	振込手数料等
(3) 母校支援金	300,000	0	300,000	部活動支援
(4) 予備費	92,700	0	92,700	
計 (1)+(2)+(3)+(4)	4,762,700	2,522,381	2,240,319	

3. 差引残高(次年度繰越金)

総額 2,364,467 円

4. 同窓会基金の部

総額 116,915,954 円

区分	令和2年度末残高	令和3年度末残高	増減	備考
①基金	6,000,000	6,000,509	509	千葉銀行定期 利息509円
②清水基金	10,099,816	10,100,673	857	千葉銀行定期 利息857円
③石田基金	0	95,337,200	95,337,200	SD50石田氏遺産贈与 千葉銀行定期預金
④130周年教育環境整備基金	4,153,421	4,153,455	34	千葉銀行 利息34円
⑤130周年記念名簿会計	1,288,105	1,324,117	36,012	名簿販売36,000円 利息12円
計	21,541,342	116,915,954	95,374,612	

以上、報告いたします。

令和4年1月12日

会計:

山田 千代子(山)

監査の結果、適正であったと認めます。

令和4年1月13日

監査:

小本 康昭(本)

小澤 晃(澤)

議案3 令和4年度事業計画
成人記念同期会は、1月8日に第72期、翌9日に前年開けなかった第71期の連続開催を果たしました、同窓会総会・懇親会は2月は見送りでしたが、延期して開催を目指します。地域・職域等の葛城会やクラブOB会、同期会等のイベント再開を期待し、支援を進めます。三月卒業生への記念品(卒業証書ホルダー)寄贈、同窓会報51号の発行ならびに個別送付、卒業生講演会への協力、来年の成人記念同期会や総会・懇親会の開催準備を進めます

議案4 令和4年度会計予算
【令和4年度会計予算】は下表の通りですが、これまで一般会計と別に設けられていた同窓会基金の取り扱いを明確にするため、会則・細則変更を絡めて提案審議をいたしました。

議案5 同窓会会則・細則一部変更案
会則・細則一部修正への経緯
令和元年に逝去された故石田康治氏(昭和50年卒)より令和3年9千5百万円を超える遺贈がありました。この受け入れにつ

議案4

2022(令和4)年度 同窓会会計予算案
令和4年1月1日～令和4年12月31日

I. 一般会計
1.収入の部 (単位:円)

区 分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備 考
繰越金	2,364,467	1,862,352	502,115	
同窓会入会金	1,600,000	1,552,500	47,500	
同窓会費等	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
会報寄付金	1,000,000	1,471,500	▲471,500	
雑収入	1,000	496	504	
特別収入	11,478,081	0	11,478,081	旧同窓会基金①④⑤分を繰入れ
収入合計	16,443,548	4,886,848	11,556,700	

2.支出の部 (単位:円)

区 分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備 考
(1) 事業費	3,550,000	1,872,191	1,677,809	
卒業記念費	150,000	129,052	20,948	卒業証書ホルダー
会報発行費	450,000	423,500	26,500	同窓会報第51号印刷
会報配布費	800,000	744,705	55,295	同窓会報第51号個別発送
卒業生講演会費	150,000	90,000	60,000	高校 総合学習
学校生活振興費	100,000	0	100,000	中学校 社会人講演会
委員会活動費	50,000	0	50,000	委員会打合せ
支部援助費	300,000	0	300,000	葛の花会通信費補助等
成人記念同期会支援費	1,200,000	99,384	1,100,616	71期・72期の2年度開催 成人記念同期会
名簿管理システム整備費	350,000	385,550	▲35,550	名簿管理システム維持
(2) 運営費	980,000	650,190	329,810	
会議費	100,000	71,772	28,228	理事会・常務役員会
印刷費	200,000	217,098	▲17,098	総会・理事会資料印刷
通信費	300,000	255,770	44,230	総会・理事会案内ハガキ、電話料
慶弔費	50,000	0	50,000	弔電・生花
渉外費	150,000	0	150,000	会長渉外費
事務局関係費	50,000	36,916	13,084	ホームページ維持管理、事務用品
事務局整備費	80,000	65,780	14,220	事務局通信機器整備
雑費	50,000	2,854	47,146	振込手数料等
(3) 母校支援金	300,000	0	300,000	部活動支援
(4) 予備費	100,000	0	100,000	前年度予算並み
支出合計	4,930,000	2,522,381	2,407,619	(1)+(2)+(3)+(4)
次期繰越金	11,513,548	2,364,467	9,149,081	
支出合計+次期繰越金	16,443,548	4,886,848	11,556,700	

II. 同窓会基金
1.収入の部 (単位:円)

区 分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備 考
(1) 繰越金	116,915,954	0	116,915,954	旧同窓会基金①②③④⑤より振替
(2) 特別収入	0	0	0	
(3) 雑収入	2,000	0	2,000	利息
収入合計	116,917,954	0	116,917,954	

2.支出の部 (単位:円)

区 分	予 算 額	前年度決算額	比較増減	備 考
(1) 一般会計への繰入金	11,478,081	0	11,478,081	旧同窓会基金①④⑤を一般会計へ振替
(2) 事業費	0	0	0	
(3) その他	0	0	0	
支出合計	11,478,081	0	11,478,081	
次期繰越金	105,439,873	0	105,439,873	
支出合計+次期繰越金	116,917,954	0	116,917,954	

いて検討する中で、従来同窓会会計に「基金の部」が金額だけであり、どのように扱うか定かでないこと、また本会財務の将来における収支の変動や、高額の要する事業の実施に備えるためにも、本会会計に同窓会基金を設置し、

① 同窓会基金は、会員等からの多額の寄付金を以てその原資とする。

② 「基金の部」にあるが使途が特定されていない項目は「一般会計に繰り入れ、特定の寄付については同窓会基金として管理する。」

<同窓会会則 一部改定部分> (太文字を追加)

- 第12条 本会の事業を行うため下記の職務を実行する常設委員会を常務役員会のもとに設ける。
- (1) 総務委員会 (業務全体の運営管理、学校との調整、理事会運営、財務に関する事項等)
 - (2) 名簿委員会 (名簿の管理、発行などに関する事項)
 - (3) 企画委員会 (講演会、懇談会、各種行事の開催に関する事項)
 - (4) 広報委員会 (会報、ホームページ等による情報発信に関する事項)
- 2 委員会の委員長は会長の指名により、理事会において選出する。
- 3 委員会は、委員長が理事及び会員の中から指名した委員で構成する。
- 4 委員会には副委員長を置くことができる。

- 第17条 本会の経費は、会費、入会金及び寄付金その他の収入をもってあてる。
- 2 本会の事業年度及び会計年度は、暦年とし毎年1月1日に始まり12月31日をもって終わる。
- 3 本会計に一般会計と同窓会基金を置く。

<同窓会細則 一部改定部分> (8条に下記を追加し、8条は9条に変更)**第8条 (同窓会基金の設置と支出基準)**

1. 本会財務の将来における収支の変動及び高額を要する事業の実施に備えるため、本会計に同窓会基金を設置する。
2. 同窓会基金は会員等からの多額の寄付金を以てその原資とする。
(参考：寄付の経緯)
① 清水 俊氏(昭和8年卒) 平成14年寄付 1,000万円
② 石田康治氏(昭和50年卒) 令和3年遺贈 95百万円
3. 同窓会基金の支出に当たっての手続及び支出基準は以下の通りとする。
 - 1) 同窓会基金の支出は収支予算に計上し、その収支予算及び収支決算については一般会計と同様に理事会の議決、承認を要する。
 - 2) 支出の使途の適正を図るため、会則第2条・第4条および本細則第1条に掲げる本会の目的・事業に鑑み、慎重に検討すること。

令和4・5年度 本部役員

☆は新任

会 長	林 孝二郎(昭和39年卒)
副 会 長	森 茂(昭和44年卒)
	戸谷 久子(昭和46年卒)
	先田幸次郎(昭和49年卒)
	池田 知行(昭和54年卒)
顧 問	☆加藤 俊文(学校長)
監 査	山本 康昭(昭和38年卒)
	小澤 晃(昭和41年卒)

《事務局》

事務局 長	阿佐 幸雄(昭和35年卒)
事務局次長	☆川島 康行(昭和58年卒)
事務局会計	☆山田千代子(昭和56年卒)

《常設委員会》

総務委員長	上原 和男(昭和46年卒)
名簿委員長	沢田 茂(昭和40年卒)
企画委員長	豊田 聡(昭和57年卒)
企画副委員長	☆東 寿浩(平成12年卒)
広報委員長	田中 航祐(平成20年卒)
広報副委員長	☆土屋 保之(昭和57年卒)

※この他、参与の方々や事務局員等多くの方がおります。

③同窓会基金の支出は収支予算に計上し、その収支予算及び収支決算については一般会計と同様に理事会の議決、承認を要する。
等を加える内容です。
承認を得た会則・細則の修正箇所は上記の通りです。
なおこの会則修正により、現在4つある常設委員会に副委員長を任ずることができるようになりました。
基金の使い方、これまでの基金が特別収入として繰入され、年度末数字が大きくなる会計

予算の表記の仕方等についての質問・意見表明はありましたが議案は承認されました。
議案6 令和4・5年度役員改選
役員改選期に当たり、顧問・参与をはじめとする本部役員、同窓会事務局員、団体選出理事、常設委員会委員長の他、年度選出の常任理事・理事の改選案をご提案しました。
大きな改選はなく、ご承認いただきました。令和4・5年度の本部役員は左記のとおりです。

るを得ないと表明し、開催準備を進めてきた共同幹事学年、54・55年卒を代表して池田知行副会長が、幹事団の御園生理事ならびにオブザーバー出席していた54年卒 齋藤則子さん・55年卒 木内茂晴さんを紹介し、本年度も総会中止とはせずに、開催できる時期に延期する道を探りたいと意を述べました。
議案審議終了後、その他報告事項として各地域・職域葛城会、クラブOB会、学年同期会の活動・開催予定及び叙勲・褒章、役員・理事の逝去等についての情報確認を行いました。

◆学校の近況報告

編集後記に代えて

同窓会広報委員長 田中 航祐

(平成20年卒)

千葉高校同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

一職員として、今年度の学校の様子を個人的な視点から改めて振り返りたいと思います。今年度も昨年度から引き続き、コロナウィルス感染症の影響を大きく受けた学校生活でありました。しかし、様々な工夫をこらして、文化祭や修学旅行をはじめ多くの学校行事を開催することができました。(写真をご覧ください。)

また、卒業生の方々から生徒たちへご講演をいただく貴重な企画も複数実現することができたことも嬉しく思っております。ご協力ありがとうございました。個人的に印象に残ったのは、デルタ株の猛威により緊急事態宣言が発令され、分散登校になった2学期初めに、本校はリアルタイムによるオンライン授業を実施したことです。

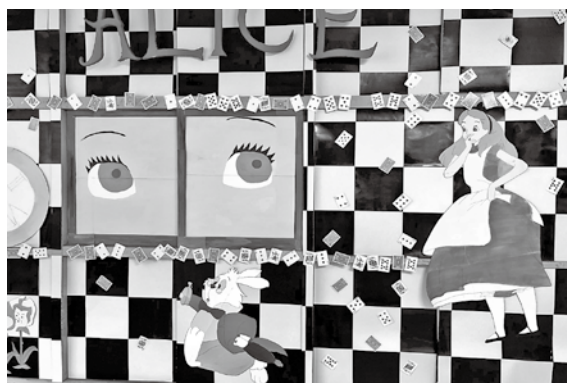
千葉県の公立高校は、私立高校や、他県の公立高校と比べて設備の面で遅れをとり、ICTを活用

した教育があまり進んでいない状況にあります。(私は他県で勤務した経験もあり、個人的にも常日頃からそれを感じています。)本校も例外ではなく、設備が限られている中、職員と生徒が協力して、オンラインの授業を実現することができました。

オンライン授業を実現するための機器やシステムの準備、調整という大変な業務に携わった担当職員、慣れない形式で授業を行う授業担当者や生徒、そのほかにも様々な人々の協力があり、実施されました。全ての学校がこのような対応をとることができなかった中、授業第一主義を掲げる本校が、不慣れなことでありながらも、柔軟かつ迅速に対応できたことは、一つの重要なケースになったと思っています。

オンライン授業以外にも、オンラインで数多くの講演を実施するなど、ICTの活用が大きく進み、新しい授業や行事のあり方が見られた1年でした。千葉高は非常に伝統のある学校ではありますが、形式的に伝統を守ることではなく、伝統の本質を見極め、それを守るために、柔軟かつ迅速に時代に対応した教育活動を行うこ

とできればと思っております。先の見えない時代が続きますが、コロナに負けずに、これからも頑張つて参りますので、応援よろしく願います。



文化祭



修学旅行



体育祭



1年合唱コンクール

葛城だより

◎令和3年度受章者

心よりお祝い申し上げます。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

瑞宝双光章 土岐紘史(昭35)

〈敬称略・卒業年順〉

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈りします。

(ご連絡のあった方のみ掲載)

一柳 博信(昭19) 3年1月23日

堀 幸男(昭22) 3年12月18日

高山 昭(昭25) 3年6月7日

久山 敬(昭26) 3年2月24日

小野口勝世(昭29) 3年4月19日

萩原 健(昭29) 3年5月29日

鳥居 一雄(昭31) 3年11月30日

増田 豁(昭33) 3年1月28日

山形 武次(昭38) 3年3月7日

森山 正隆(昭39定) 3年8月1日

小澤 慶和(昭41) 3年7月7日

〈敬称略・卒業年順〉

◎寄付者(同窓会宛)

心より御礼申し上げます。

●石田康治様(昭50)

95,337,200円

題字揮毫 辻元大雲氏

本名：洋一 昭和37年卒